

Brazil <ブラジル>

FERNANDO HADDAD、教育相：2000年にブラジルは特に劇的な状況にありました。PISA調査が始まった年で、ブラジルの成績は大変にお粗末でした。理由は、それまでの十年間に教育の質が著しく低下していただけでなく、生徒の中途退学や落第の問題があったためです。2000年がブラジルの歴史において画期的となったのは、私たちがその状況を是が非でも変えなければならぬ年だったからです。

TITLE: “Strong Performers and Successful Reformers in Education: Brazil”

CELIO DA CUNHA、ブラジル大学教授：重要なのは次の点を思い浮かべることです。歴史的に、ブラジルの教育は常にエリートの特権でした。ごく最近になって初めて、ブラジルは万人がアクセスできる教育の改革に着手したのです。

FERNANDO HADDAD：要するに、1990年にブラジルの教育で何が起こったかという、両立しない2つの施策を組み合わせようとしたことでした。1988年に現在のブラジル憲法が可決され、教育はあらゆる児童と若者の個人としての権利とされ、基礎教育を誰でも受けることができるようになりました。しかし、その後まもなく、教育リソースは増えるどころか減少しました。就学者が増えても、提供されるリソースがその増加に追いつかなかったからです。教育資源は、増えるどころか減少しました。

MALVINA TANIA TUTTMAN、国立教育研究所所長：1960年代半ばまでであれば、それが質の高い教育システムだと考えることができました。しかし、誰でも教育を受けることができるようになると、システムの児童数は90%増加しましたが、質の水準を維持できませんでした。

生徒：（声をそろえて教科書を朗読している）

教師：「この文章から何が分りましたか？」

FERNANDO HADDAD：私たちのこの状況を変えるためには、基礎教育にもっと投資する必要がありました。そこで、生徒1人当たりの投資を倍増したのです。

テキストスライド：1998年にブラジルは、購買力平価換算で小学生1人当たり\$956相当、中学生1人当たり\$1,069を費やした。2007年までに支出はほぼ倍増し、小学生1人当たり\$1,862、中学生1人当たり\$1,947に達した。

FERNANDO HADDAD : 現在、ブラジルでは、GDP の 5%以上が学校教育に投資されていますが、かつて投資されていたのは 4%未満でした。国家教育計画では、2020 年までに教師の平均給与を国内の大学レベルの学位を持つ他の専門職の平均給与と同等にしなければならぬという目標を設定しました。また、各自の目標を達成した学校に褒美を与える仕組みも創設して、目的を達成した学校が連邦政府から自動的に補助金を受け取れるようにしました。それで学校はさらに大きな自主性を発揮できます。一方、目標を達成しない学校が資金を減らされるという罰を受けることはありません。それでは子どもを二度罰する危険を冒すことになるからです。

MARIA IZOLDA CELA DE ARRUDA COELHO、セアラ州教育長官 : 最優秀校が賞金を受け取るのは目標を達成したからです。賞金は生徒数によって決るためまとまった金額になり、これは、それまで見たこともないような財源になります。最も成績が悪かった 150 校も生徒 1 人当たりの補助金を受けます。これは賞金よりは少ない額ですが、それでも有意義な金額で、改善実施の支援として受け取るものです。

DOMINGOS SAVIO FERREIRA SOUSA、**Jose Da Matta E Silva Sobral** 校長 : この小切手は 150 校の最優秀校に与えられます。受け取った学校では、校長が学校評議会と会議を行って、こうした財源の使い方を決定します。それによって学校の改善を行うのです。私共では教室を 4 室増築して、たくさんの教材、紙、文房具、コピー機を買いました。ほかに、教職員に賞与も支給しています。

生徒 : 「アクション！」 「もう行かなければ。」

生徒 2 : 「お願い、行かないで。」

生徒 : 「ああ、夜明けだ...」

生徒 2 : 「まだ行ってはだめ。」

生徒 : 「愛する人よ。」

生徒 2 : 「まだ行ってはだめ。」

生徒 : 「朝の光だ！」

生徒 2 : 「流れ星よ ! 」

生徒 : 「ここに留まって死ぬか...」

生徒 2 : 「行ってしまうの ? 」

生徒 : 「さようなら。」

MARIA IZOLDA CELA DE ARRUDA COELHO : 成績が最も良かった学校と最も悪かった学校との間の関係も築きました。成績の良かった各校は、成績の悪かった学校に対して何らかの指導を行うことに同意し、経験を伝えて、成績の向上を助けます。

CELIO DA CUNHA : ブラジルは、基礎教育開発指標 (IDEB) を創出しました。IDEBには教育省が各学校の成績について収集したデータが含まれています。この評価は教育省が実施した後に各学校に送られ、このデータから目標を設定することができます。

テキストスライド : 結果を向上させる手段として成績をモニタリングする : ブラジルは、1995 年に、4 年生、8 年生、11 年生のサンプリングした生徒たちを 2 年ごとにテストする全国評価を開始した。2005 年に、この評価は 4 年生と 8 年生全員に拡大された。

テキストスライド : 2007 年にブラジルが開始した基礎教育開発指標 (IDEB) は、評価の得点を生徒の流動性の指標と結び付けるものである。

FERNANDO HADDAD : 私たちは学校の成績を公表し始めました。2 年ごとに評価を受ける公立学校は 6 万校以上あります。ブラジルにこのような前例はありませんでした。何らかの評価制度はありましたが、学校が成績を公表したことは一度もありません。そこから何が起こるか、ある程度の不安はありました。

MALVINA TANIA TUTTMAN : この評価の意義について熟考することは重要だと考えています。最近まで目的は単に分類し、順位付けすることでしたが、これは、この国でも国際的にももう終わっています。今日の評価で重要な部分は、それを使って問題を診断することです。

テキストスライド : セアラ州はブラジルで 17 番目に面積が広く、人口では 8 番目で、800 万人が住んでいる。ブラジルで最も貧しい州の一つでもあり、教育においては何年もの間、成績が最も低いレベルだった。

テキストスライド：近年、セアラ州は教育改革のショーケースとなっている。

教師：「それは何の文字ですか、カブリエル？それは“queijo”の文字だと思いますよ。“queijo”の文字は何ですか？その文字は何ですか？」

JULIO CESAR DA COSTA ALEXANDRE、セアラ州ソブラル教育長官：ソブラルの教育システム改革は、2つのシンボルの下で計画されました。第一に生徒、特に学習過程で。第二にすべての指導的側面である校長です。

生徒たち：「おはようございます！」

DOMINGOS SAVIO FERREIRA SOUSA：「よくできました。さあ、今日もこの一日について神様に感謝して始めましょう。実り豊かな日となりますよう、たくさん読んで、たくさん書いて。」

DOMINGOS SAVIO FERREIRA SOUSA：毎日、歓迎式を行います。そのときは生徒全員を校庭に集めます。

教師と生徒（歌う）：「今こそ勝利のとき！力は君の中から湧いてくる。ぼくたちはみんなスーパーヒーローになる。」

DOMINGOS SAVIO FERREIRA SOUSA：「さあ、それでは今日も最高の一日を！楽しく勉強して、じゃあまた！」

DOMINGOS SAVIO FERREIRA SOUSA：校長、教職員たちにとって、これは生徒一人一人と、目と目を合わせて気持ちを伝え合う時間です。生徒たちがやって来て、ここに来ている、今ここにいる。だから、この歓迎式は大切です。一緒に過ごす一日の最初の瞬間なのです。

生徒たち：「おはよう！一緒なら、ぼくたちの夢はかなう！」

DOMINGOS SAVIO FERREIRA SOUSA：「すばらしい！何もかもうまくいっているかな？ようし。1分ばかり、みんなに話を聞いてほしいのだけど、何の話かな？さあ、先ずはこれだ。勉強をするためには、どこに行く？」

生徒たち：「学校。」

DOMINGOS SAVIO FERREIRA SOUSA：「これが出席だ。君たちがこの教室にいて、先生と勉強していることだ。わかったかな？」

JULIO CESAR DA COSTA ALEXANDRE：必要だったのは、弊害を排除し、すべてのことを合理的に、賢明なやりかたで機能させる、リーダーシップが学校に現れることでした。それが校長の役目です。ここの校長たちは、結果を読み取る方法を知っています。結果を読み取ったことから、戦略を生み出す方法を知っているのです。

DOMINGOS SAVIO FERREIRA SOUSA：「こうやって君たちと過ごすために来たんだよ。本を読むことが大切だという話を君たちとするためにね。さあ、もう一度聞くよ、みんな、本を持っているかな？高く挙げてみせて！」

JULIO CESAR DA COSTA ALEXANDRE：2000年に行った評価では、子どもたちの48%が読み方を知りませんでした。文章も、語句も、単語も、読めなかったのです。ソブラルは、学者たちが「スクール・イリテラシー」と呼ぶ状況に直面していました。学校が読み書きのできない人々を生み出していたのです。

教師：「こんな風に、ブタは森の中を歩き続けました。しばらくして、浜辺で立ち止まり、大きなメカジキを見つけました！そこで、ブタは立ち止まって尋ねました。『君の鼻はどうして長いのか？』」

DOMINGOS SAVIO FERREIRA SOUSA：この市全体で、どの学校も、特に私共の学校は、この1つの焦点を目指し始めました。本を読むことは、子どもにとって可能性に満ちた世界への扉を開く第一歩だと、私たちは信じているからです。子どもたちが読む本の一冊一冊、読み聞かせられる物語の一つ一つで、子どもは別世界へ旅をするのです。

生徒：(朗読する)

教師：「はい、ちょっと注意してください。あなたの読み方には・・・、例えば、これは何という単語ですか？」

生徒：「『パレス』です。」

教師：「これを読むときに、『アパレス』と読みますね。文字の無いところに文字を入れて

いますよ。」

JULIANA MARIA LEITE TEIXEIRA、Jose Da Matta E Silva 教育コーディネーター：毎週、読み方のために子どもたちを呼んで、何を上達させる必要があるか、見極めます。このサポートが、生徒一人一人の成長を強化する方法を決定する際に助けとなります。個人のフォローアップが違いを生むのです。生徒一人一人について行うことが大切です。

DOMINGOS SAVIO FERREIRA SOUSA：基準があれば、誰が良い成績を収めているか、私たちが理解する上で役立ちますし、その水準に達していない者にも役立ちます。すべて数字で、170、180、190、200 と表されるからです。

DOMINGOS SAVIO FERREIRA SOUSA：校長としての私と教師たちとの関係は、非常に開放的です。気楽なやり方で話し合い、意見を交換します。教室に入って行って、座って、ごく自然に授業を参観します。授業を見学して、授業の決まりごとがどのように進んでいるか注意します。それについては、何の問題もありません。何らかの教育上の援助を与える必要があると感じたときは、個人的に呼んで、話し合います。学校出席指標は非常に重要な問題です。生徒が学校にいないければ、教室にいないければ、どうやって学習するのです？すべての教室を毎日、暦の上の登校日 200 日、一日も欠かさず訪れる担当スタッフがいて、生徒全員の出席をチェックしています。

DOMINGOS SAVIO FERREIRA SOUSA：「さて、今日欠席していた生徒は何人だった？」

スタッフメンバー：「3年生に1人います。」

DOMINGOS SAVIO FERREIRA SOUSA：「もしもし、Jose da Matta E Silva の学校から電話しています。Elena さんですか？こんにちは、校長の Savio です。お変わりありませんか？実は Isaias 君のことでお尋ねしたいことがあります。今日はどうして学校に来ていないのか、お伺いしたいのですが。」

DOMINGOS SAVIO FERREIRA SOUSA：彼女は欠席者のリストを作ると、私の部屋へ来ます。それから電話をかけ始めます。この学校ではこれを電話プロジェクトと呼んでいます。どうして電話プロジェクトと呼ぶのかって？電話を使うからですよ。

JULIO CESAR DA COSTA ALEXANDRE：「学習結果を見ました。みなさんはそれぞれ、学校ごとに個別の結果を受け取りましたね。」

JULIO CESAR DA COSTA ALEXANDRE：毎週、校長たち全員と 8 時間のミーティングを開きます。これは市庁舎のホールで行います。議題はいつも、そのとき学校で起こっていることに関係しています。

JULIO CESAR DA COSTA ALEXANDRE：「みなさんには穏やかな気持ちで、落ち着いていてくださいと言いたいだけです。もちろん、もっと良い結果にも成り得たでしょう。しかし、最悪の事態ではありませんでした。結果が悪かったというような。でも、悪かったのではありません、ただ、改善の必要があることだというだけです。」

JULIO CESAR DA COSTA ALEXANDRE：当初は、一部の校長たちの間に大きな違いがありました。大きく進歩した学校もあれば、まったく進歩の無かった学校もありました。学校どうしで連絡を取りあうこと、学校どうしの付き合いや交流で、誰もが最も優れた校長たちから学ぶことが可能になると、私たちは気付きました。

テキストスライド：セアラ州の教育の成果は向上した。セアラ州では、2005 年に 3.2 だった 4 年生の IDEB 指標が 2009 年には 4.4 へ、8 年生については 3.2 から 3.9 へ、そして 11 年生については 3.3 から 3.6 へ、向上した。

テキストスライド：これによって、セアラ州は、最も成績の悪いグループを抜け出し、ブラジルの 27 州のうち 14 位となった。

MARIA IZOLDA CELA DE ARRUDA COELHO：教師たちにとって最も強力な刺激の一つ、そして公教育システムのすべての教育者にとって最も強力な刺激の一つは、成果を達成することです。学校に、生徒たちに、地域社会に、責任を負う文化を創り出すこと。これはとても強力です。

JULIO CESAR DA COSTA ALEXANDRE：今日、ソブラルで教師をしていること、この教育システムの校長、教師、職員であることは誇りです。教師たちは、「Joao に、Maria に、Jose に、読み書きを教えたのは私です」と堂々と言えます。そして、それに誇りを感じています。これは美しい旗印を掲げたプロジェクトです。私たちは教職を救ったのです。

テキストスライド：PISA 2000 年調査では、15 歳のブラジル人の 56% 近くが習熟度レベル 1 以下だった。PISA2009 年調査では、この割合は 50% をわずかに下回るまでに減った。

テキストスライド：PISA 調査の数学的リテラシーにおいて、ブラジルの得点は 2003 年の 356 点から 2009 年の 386 点に改善した。科学的リテラシーでは、2006 年の 390 点から 2009

年の 405 点に改善した。

FERNANDO HADDAD : 私たちは、それぞれの学校と地域の固有の状況や背景を考慮した目標を設定します。こうした裁量で、各校とその地域が目標を達成するための独自の戦略を策定できるようにしているのです。こうした裁量を与えることによって、ブラジルはイノベーションとベストプラクティスの巨大な実験場となりました。各州が独自の現実と独自の伝統に照らし、従う必要のある国家的な目的があることを知った上で、それぞれの道を探します。